

## 式辞

初夏を知らせる爽やかな風が流れる中、本日、北陸高等学校令和二年度入学式を挙行することができましたことを、本日集まりの新入生の皆さんと先生方とで共に喜び合いたいと思います。令和二年度は普通科、商業科 合わせて六五七名の入学となりました。新入生の皆さん、本当にご入学おめでとうございます。心より歓迎致します。

さて、新入生の皆さん、皆さんは今日の入学式を迎えるまでに感染予防の生活を強いられ、三か月近く不安な日々を過ごしてきたことでしよう。しかし、皆さんは自分や家族、友達などの周囲の人たちの命を守るための行動をとり、今できることを精一杯、強い心で取り組みながら生活してきました。その努力、姿勢に称賛の言葉を送りたいと思います。今後もウイルスは残ると言われています。私たちは自分や他の人たちの、お互いの命を守る生き方を、これからも続けていかなければなり

ません。そのために、先生方と共に命を守る学校生活を創り上げていきたいと思います。

今、皆さんの前には、仏さまを中心にあいただき、おごそかに飾られた式壇があります。本校は、浄土真宗本願寺派の宗門校であり、建学の精神は親鸞聖人のみ教えに基づく仏教精神です。その精神とは、私たちは皆、仏となる命を生きている身であることを知り、「おかげさま」という感謝のところで、今を、この人生を、大切に生き抜く「ころ」です。これまで本校から多くの先輩方が、親鸞聖人のみ教えを「いのち」と「ころ」の拠り所とし、そこに夢の実現に向けて「努力」という柱を樹ててきました。その先輩の一人である、現在、国内でバスケットボールの中心的存在である篠山竜青さんは、このコロナ感染予防の厳しい状況の生活が続く中で、高校生に向けて、次のようにメッセージを送っています。「何年後かに、新型コロナ感染予防の期間があつたからこそ今の自分があると、胸を張って言える未来にしよう。だから、今でできること、

今しかできないことが何なのか考えて行動しよう」  
この篠山先輩の言葉の中にも、将来の自分の「いのち」  
のあり方、生きる姿勢があります。そして、そこに  
向かう「こころ」の在り方が示されています。今をど  
う生きていくのか、それを本校でしっかりと学び続  
けてほしいと思います。

それから、本校で学ぶ皆さん全員に、ぜひ心に  
刻んでほしいことがあります。それは、「自分を律  
する」ということです。本校のテーマに「文武両道」  
という言葉があります。これは、勉強とスポーツ共  
にすぐれていることを表す言葉ですが、本校は強い  
志をもつて、皆さん一人ひとりが、勉強にも心身の  
鍛錬にも、どちらの面でも自分を鍛えていくこと  
を期待している学校なのです。そのために、皆さん  
全員に、「自分を律する」心を根底に持ち続けて  
ほしいのです。

この春、本校を卒業した、女子走り高跳びで  
インターハイで優勝を飾った先輩がいます。本校に  
入学した当初から活躍を期待されていた選手で

したが、足を負傷してしまい、長い期間結果が出ず、つらい練習が続きました。しかし、指導される先生方からの励ましの言葉をしっかりと受け止め、自分自身に課題を設け、強い心で努力を積み重ね、三年生の最後のチャンスで自分の華を咲かせています。

これから先、安易な方向に行くのではなく、この先輩のように、自分を律する心をしっかりともち、自分を高めていく高校生活となるように歩み始めてほしいと思います。この学校で学ぶ生徒は、そういう強い心を身に付けながら成長していくことを、ぜひ、皆さんも高校生活の中で体現していつてほしいと思っています。

今日からの学校生活の中で、数え切れないほどの言葉を皆さんは先生方やお家の人、友達、先輩方からかけてもらうことでしよう。皆さんのことを大切に思う人からの、願いのこめられた言葉を素直に受け止め、自分を律しながら、成長と自信を感じることができる高校生活へとつなげていきま

よう。本校での皆さんの活躍を心から期待し、  
式辞といたします。

令和二年五月二十七日

二十八日

二十九日

六月 一日

二日

北陸高等学校 校長 朝倉乗恵